

「選挙行つて戦争法廃止」

新潟市で若者ら声

戦争法廃止を訴える参加者 23日、新潟市

にいがたデモクラシークルーは23日、新潟市で戦争法廃止を訴える宣伝を行いました。若者を中心に15人が参加しました。

五十嵐健彦民青同盟県委員長が「国民の反対の声を無視して戦争法が強行成立した。後方支援の名のもとで自衛隊員が戦闘地域で殺し、殺されることになり。何としても廃止させよう」と訴えました。

新潟県立大学の福本圭介准教授は「黙っていれば賛成したことになる。参議院選挙は大事な選挙。おかしいと思ったら意見表明してほしい。あきらめないで投票に行くべきで

す」と訴えました。

ほかにも「野党が共闘して戦争法を廃止してもらいたいと強く思っている」「安保法制は国を守ることとは関係ない。野党が力を合わせて廃止するため、選挙に行くことが大事だ」と訴えました。

参加者の間健太郎さんは「可決されたときは怒りがこみ上げてきた。自衛隊員は戦争に行つてほしくない」と話しました。

29歳の男性は「インターネットで知って、国会前に2回行ってきただ。危うい法律は廃止



させなければいけない」と述べました。